

# お祝いのメッセージ

平成 17 (2005) 年 10 月に活動を開始した「三鷹ネットワーク大学 (以下ネット大)」は今年、開設 10 周年を迎えています。これまでネット大の活動をお支えいただき、ご参画いただいた市民の皆さま、清成忠男理事長はじめ理事の皆さま、賛助会員の皆さま、歴代常務理事はじめ事務局の皆さまとともに、10 年の歩みを心から祝福し、ご一緒に未来を展望したいと思います。



清原慶子  
三鷹市長

ネット大は、「民 (市民)」「学 (大学研究機関)」「産 (産業界)」「公 (市役所等の公共機関)」「官 (国の機関)」がつながり、それぞれが持つ知的資源を最大限に活かして協働し、三鷹市から全国に向けて、そして、未来に向けて、地域課題の解決を含む「まちづくりの新しい扉」を開く「大学研究機関との協働の新しいカタチ」を示してきました。

ネット大では、会員である大学研究機関とご一緒に、多様で多彩な講座を開講するとともに、まちづくり総合研究所での調査研究活動、国や都の公募事業、事業者や研究機関と連携した実証実験など、さまざまな研究開発事業にも取り組んできました。

たとえば、国立天文台による「アストロノミー・パパ」や「太宰を読む百夜百冊」「SOHO ベンチャーカレッジ」のように長期継続講座の事例が生まれました。また、分野を超えた連携のなかから誕生した「みたか太陽系ウォーク」という市内各所のスタンプラリーという参加型のイベントでは、協力事業所や参加者が年々増加し、市内に科学文化による活気をもたらしています。

この 10 年間は、関係者がまさに大学研究機関と市民や各種団体と市とが、協働の充実に向けて創意工夫を重ねてきています。地域人材養成についても、山本有三記念館、太宰治文学サロンなどの文化施設のガイドボランティアや星のソムリエ、科学プロデューサーの養成講座、教育人材や福祉分野のボランティア育成などの成果を挙げています。さらに、人材と活躍の場とのマッチングにも力を注いでいます。

ネット大の事業は、参加者・関係者による知識や情報の共有化を基礎にして、出会いが新しいアイデアをまちづくりに活かしていく過程を顕在化させています。多様な皆さまが、多層的多元的なコミュニケーションを進めていく機会を提供することで、課題発見と課題解決が進み、三鷹市の元気の原動力となっています。

ネット大がこれからもこれまでの 10 年間と同様に、大学研究機関を中心として、民学産公の協働を進め、現代の課題解決をはかるとともに、未来をきりひろくするために、さらなる学習、研究開発と交流の場となることを期待しています。

三鷹ネットワーク大学 10 周年おめでとうございます。清成忠男理事長のリーダーシップの下に着実な歩みを続けてこられましたことに祝意を表します。私も微力ではありましたが、設立当初及びその後の数年間、国際基督教大学学長として三鷹ネットワーク大学の活動に参加させていただいたことをなつかしく思い出しております。



鈴木典比古  
国際基督教大学  
学長

今後の日本では、高等教育機関の地域連携が益々重要になります。これは少子化による学生減少が予想される中で、大学の生き残り戦略的意味もありますが、それよりも ICT 技術を使った大学間協力・連携が進む可能性が大きくなっていることがあげられます。

21 世紀の中頃の大学の在り方、大学コンソーシアムの在り方について、三鷹ネットワーク大学がモデルになってくださることを願います。



全国に先駆けて「民学産公」の協働によるユニークな事業展開を続けてこられた三鷹ネットワーク大学の10年の歩みに心より敬意を表しお祝い申し上げます。



松田博青  
杏林学園  
理事長・学園長

本学は平成25年度にそれまでの地域交流活動が認められて文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択されました。それまでの三鷹ネットワーク大学とのかかわりは医学部などの関係者が時折講演を行う程度でしたが、採択をきっかけに26年度は20件の公開講演会(受講者1,471人)を共同開催させていただき、27年度も同程度の共催の講演会を予定しています。平成28年4月には三鷹市下連雀に井の頭キャンパスを設置して八王子キャンパス(保健学部・総合政策学部・外国語学部・保健学研究科・国際協力研究科)を移転し、教育・研究機能を三鷹に集約します。社会貢献は大学の使命であり、移転を契機に本学の人文・社会科学系の教育・研究資源も活用して、様々な分野でこれまで以上に連携させていただきたいと願っています。

私は、三鷹ネットワーク大学の創設から関わらせて頂き、「民学産公」の協働の可能性を実感しています。

ルーテル学院大学は、深い人間理解を基盤に置き、社会福祉、臨床心理の専門職の養成を重要な使命とし、児童、高齢、障害、母子等の福祉機関・施設、医療・教育機関、行政、社会福祉協議会等で働く人材を送り出しています。その教育能力と知識、経験を三鷹市へ還元し、貢献することは、本大学が目指すことであり、ネットワーク大学はその場を提供してください



市川一宏  
ルーテル学院大学  
学事顧問

ました。メンバーの大学がコラボして地域ケアの体系的な学びと実践を市民に提供したプログラム等、先駆的な取り組みもありました。その結果、たくさんの方々との信頼が生まれ、ネットワークが広がりました。これは、本学にとって大きな収穫でした。

本大学の特性を理解してくださり、様々な機会を提供し、支援してくださった清成忠男理事長、副理事長で杏林学園理事長松田博青先生、国際基督教大学前学長鈴木典比古先生、現学長日比谷潤子先生、そして市として積極的に「民学産公」の協働を進めてくださった清原慶子現市長、河村孝前副市長に心から感謝します。

ルーテル学院大学は、今後も積極的に、三鷹ネットワーク大学の働きに加わってまいります。

三鷹ネットワーク大学推進機構は、2015年10月に10周年を迎えます。この間、本邦では唯一の「民学産公」の協働による「地域の大学」として、教育・研究機関を地域に開放し、地域社会における知的ニーズを融合してきたことに、心より敬意を表します。



日比谷潤子  
国際基督教大学  
学長

1953年に三鷹市大沢に開学した国際基督教大学(ICU)は、各種講座やイベントを通して、このネットワーク大学の活動に参画してまいりました。加えて、機構には本学学生がさまざまな形でお世話になっており、深く感謝申し上げます。今後も、地域の人々がそこに軸足を置き、地域の特性を十分に活かしつつ、世界に向かって開かれた多彩な活動を展開する拠点として、ますます発展していくことをお祈りしております。